



Vol. 17

# 岡崎嘉平太記念館だより

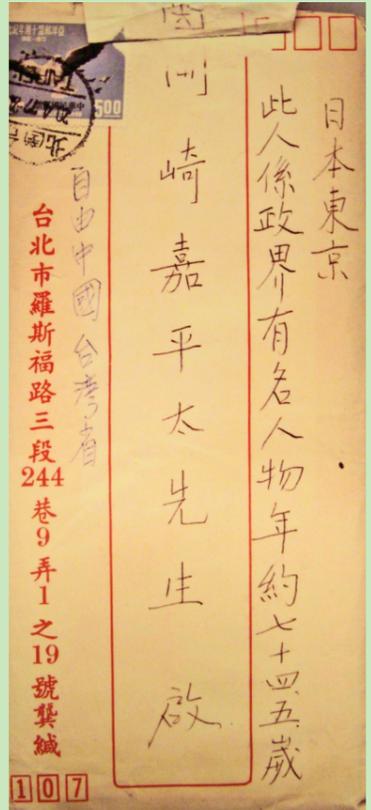
きょうとくはく

## 嘉平太氏が出会った人々—龔徳柏氏—

日本が今度の戦争に負けたときに、蒋介石の布告というのが出たんです。その布告にね、「怒みに報いるに徳を以ってせよ」という言葉が入っているんです。これは、老子かなんかの言葉なんです。我々は上海で敗戦事務をやっている頃ですから、その言葉を新聞で読んだときには本当に有り難いなど思ったんですよ。ところが、この蒋介石の布告の原文は龔徳柏という人が書いたんだということが伝わってきたんですよ。もし僕の友人である龔徳柏が書いたのなら、本当に感謝しなければならぬ。

敗戦後、湯恩伯(とうおんぱく)という日本の士官学校を出た将軍が接收に来たんです。そのとき総務主任をやっていた胡という少将がいたんですが、日本政府は上海の接收に関して僕に一任することだから、私は彼らとはしょっちゅう会っていた。それで、龔徳柏について聞いたんだが、彼は僕の高等学校の友人で、日本を恨んで帰った男なんだ、それが何應欽軍の政治部長だったんですが、今南京まで来ていることが新聞に出ていた。そういう事情があったので龔徳柏に岡崎を知っているかどうか、東京に来ていたことがあるかどうかが照会して貰ったんです。(中略)正に僕の知っている龔徳柏だったんです。(中略)それから後になってある新聞社から「交友抄」に何か書いてくれと頼まれたので、龔徳柏のことを書いてくれた。日本を恨んで帰った龔徳柏が、命令ではあるけれど、「怒みに報いるに徳を以ってせよ」という蒋介石の布告を書いてくれた。本当に学友というものは有り難いもんだということを書いたら、横浜にいる華僑がそれを読んで、僕に「岡崎さんの探しておる龔徳柏というのは、今台湾にいる。彼は時々政府に意見具申をする男で、今謹慎を命ぜられておるから、手紙は出さない方がいいですよ」という手紙をくれたんですが、そのうちに我々の友達が台湾に行ったりするもんだから、向こうが先に手紙をくれたんですね。大きな封筒に入れて「この人有名人岡崎嘉平太」と書いてある。(中略)それから文通をやるようになったんです。死ぬ二年前ぐらいにくれた手紙は「日中戦争で、中国が日本に勝つ二年前に我々は日本に絶対勝つという確信を持って。そのとき自分は意見を書いて、蒋介石にも差し出しておいた。その中に「日本に勝つことは決まっているけれど、勝っても日本が再起できない程苛めてはならない。日本は我が国の経済復興に協力して貰わなければならない国だ」と書いておいた」と私に知らせてきたんです。僕はそのとき本当に涙が出たんですよ。

岡崎嘉平太伝刊行会著「岡崎嘉平太伝」より



嘉平太氏は、第一高等学校で出会った中国人留学生の友人龔徳柏氏から当時中国が置かれていた状況を聞き、大きな衝撃を受けました。当時日本は、中国人に対する差別があり龔氏は、反日思想を抱いたまま帰国してしまいました。嘉平太氏は、この出来事をきっかけに日本と中国は、手を携え、アジアをよくしていくかなければならないと、日中友好に向けて尽力する決意を固めました。写真は、龔氏から嘉平太氏に送られてきた封書です。『比人係政界有名人物年約七十四、五歳 岡崎嘉平太先生』と記してあり、国会議事堂に届いた後、嘉平太氏に届いています。この貴重な封書の複製は、常設展示しています。

## 就任挨拶

岡崎嘉平太先生は、生涯を通してアジアの平和と日中の友好に情熱を傾けられ、昭和37年の日中覚書貿易の締結や昭和47年の日中国交正常化の実現に尽力されました。

今年が国交正常化40周年を迎えます。この記念すべき40周年の年に館長として就任し、嘉平太先生の研究や顕彰に携わることができ大変嬉しく光栄なことだと感じております。

私は縁あって平成19年4月から3年間、犬養木堂記念館の館長に就任していました。犬養木堂は憲政の神様と称せられ、政党政治の確立に生涯を捧げましたが、嘉平太先生同様に中国との親交も深かった政治家でした。しかし、5.15事件により志半ばで凶弾に倒された悲運の政治家でありました。

私はこの度の岡崎嘉平太記念館館長の就任に当たっては、なぜか不思議な縁を感じ、日中友好に尽力されたお二人の先人とかかわりを持つことができる喜びと同時に責任の重さを痛感しております。

記念館では、日中国交正常化40周年を記念して、秋季に企画展や講演会を計画しております。この機会に、たくさんの方に来館していただき、日本と中国との友好の大切さや「信はたていと 愛はよこ糸 織り成せ人の世を 美しく」という嘉平太先生の高い志を知っていただけるよう、より一層顕彰に努めてまいります。今後とも、ご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

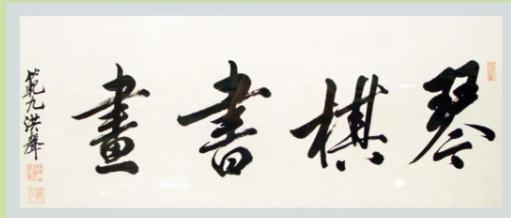


かんばら きよし 神原 清 新館長

## 常設展展示の様態替えをしました



左の写真は、嘉平太氏が上海赴任中に、ご家族へ宛てたハガキです。北京からご子息へ宛てて『絵はがきを送ってあげる。二人で仲良くみるのですよ。』と添えてあり、また、一人ずつに宛ててしたためられており、遠く離れて暮らす家族への心遣いがよく感じられます。



岡山中学校へ中国より留学しておられた嘉平太氏の二年先輩、陳範九(ちんはんきゅう)氏に書いてもらい、大切にされていました。

『琴棋書画』は、琴を弾じ、棋を囲み、書画をよくすることで、中国の知識人の文雅の四芸。



編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.okazaki-kaheita.jp>

Eメール [okmh@okazaki-kaheita.jp](mailto:okmh@okazaki-kaheita.jp)

2012.6



最優秀賞「公園の朝」  
芝 次昇 さん

■入賞者

優秀賞

堀 紘治さん・永山好人さん

審査員特別賞

鶴峯省吾さん・中原秀夫さん

林 敏雄さん

入選

石原一夫さん・尾川征尾さん

神崎由子さん・小寺康文さん

新川洋子さん・杉本小銀さん

長尾 進さん・中原廣明さん

土師 亨さん・宮本康雄さん



表彰式で長瀬先生とともに  
(前列右から三人目)

過去最高の176点の応募を  
いただきました。

第6回  
嘉平太が愛した  
ふるさと岡山  
心なごむ風景  
写真展

記念館のホームページ上で  
入賞作品を閲覧できます。

<http://www.okazaki-kaheita.jp>

岡崎嘉平太先生は、ふるさと岡山をこよなく愛され、故郷の人との交流を大切にされました。この写真展は、写真を撮ること、作品をみることを通じて、多くの人に岡山の良さを再認識していただきたいと願い開催しています。応募作品は4月29日(日)に長瀬正己先生、森山知己先生、神原清当記念館館長で審査しました。

5月20日(日)の表彰式では、初めて審査の先生に講評をしていただきました。長瀬正己先生は、「身近な郷土の風景に目を向け、何度も見つめてみて、撮る人の感性で細やかに表現した写真、抜群の光をとらえた写真、今を切り取った写真が集まりハイレベルな写真展になった。」とおっしゃられました。

岡崎嘉平太国際奨学財団の来館

平成24年5月11日(金)



ジェリー リク チャオチー

①左から、黄 瑞健さん、陸 譯韻さん、趙琦さん、アフィックさん。

②嘉平太先生が愛されたふるさと大和山の山頂にヤマザクラの苗木を植樹しました。

③嘉平太先生の母校 大和小学校の全校生徒の大歓迎を受けました。

④記念館で、初岡学芸員より説明を受けました。大変熱心に学ばれました。

岡崎嘉平太国際奨学財団第22期奨学生4名らが、嘉平太先生の墓所へのおまいりや、当記念館への研修などに来られました。

第22期生は、中国、台湾、マレーシアから、日本の大学院で学ぶために選抜され、招聘されたそうです。日本語もお上手で、礼儀正しい方々で、アジアの将来を担うすばらしい若人の活躍が期待されます。

これからの展示のお知らせ

第6回 嘉平太が愛したふるさと岡山  
心なごむ風景 写真展

岡崎嘉平太記念館 研究室

5月18日(金)～7月1日(日)

※火曜日休館

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

天満屋 地下タウン アートスペース

※展示は入賞作品のみとなります

7月4日(水)～7月9日(月)

午前9時～午後7時30分

(7/9(日)は午後4時に終了します)

秋の特別企画展  
日中国交正常化40周年記念  
日中国交正常化の立役者  
岡崎嘉平太

9月22日(土)～12月27日(木)



劉 希文氏と嘉平太氏

岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える 第10回講演会

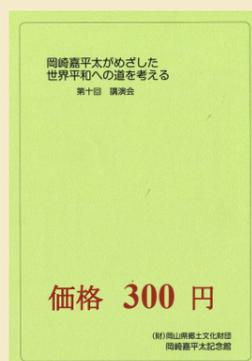


◆講師及び演題

鈴木 将弘 氏 (元全日本空輸株式会社 機長)  
「岡崎先生へ熱烈ラブレター」

土井 道彦 氏 (社会福祉法人吉備の里理事長,  
元岡山県政策審議監)

「岡崎先生の遺言  
— 『岡崎嘉平太伝』インタビューで見た愛と情熱 —」



購入希望及びお問い合わせは、岡崎嘉平太記念館まで